



としかずじょうあと 利員城跡

基本データ 住所：常陸太田市中利員町 1（天満神社）付近

18 日(土)のみ

開始時間 (ツアー)	駐車場	写真撮影	スタンプ	トイレ	雨天時の 展示物変更
10：30～ 13：30～	○	○	○	×	なし

※ 各回ともに所要時間 1 時間程度、開始時刻 30 分前より受付を開始します。

利員城跡（別称：利員^{りゅうがい}竜員城）

利員城は「根小屋式¹」の大型の城郭で、久慈川支流浅川の左岸、標高 130m の丘陵上に位置します。本郭南西側の麓には天満神社が所在し、城域は、東西約 120m、南北 150m と推定されています。山入城跡（市内国安町）と同等以上の規模を誇り、山城部はほぼ完存状態です。居館部にも横堀や土塁の一部が残されています。

利員城に関わる史料が非常に少ないことから築城年代は明らかになっていないものの、1400 年頃には既に城が存在していたと考えられます。また、山入の乱²の初期には、利員城は山入氏側の城であったと思われます。その後、文明 10 年（1478）頃には佐竹宗家の城であったと考えられ、部垂の乱³終息後には佐竹家臣団が存在していました。佐竹氏が出羽国（現秋田県）へ国替えとなるまで、約 200 年の歴史を有する城です。

近年、地元の有志を中心とした「利員城保存会」が立ち上がり、一帯の整備が行われたことによって、藪に埋もれていた遺構が姿を現しました。これに伴って詳細調査が行われ、全貌が明らかになりましたが、現在も調査が続けられています。

¹ 山麓に居館や屋敷を備えた山城の形式。山城は平地の面積が狭いことから、この構造がみられる。

² 佐竹宗家と佐竹庶流の山入氏を中心とした佐竹一族の内乱。

³ 佐竹 17 代当主・義篤と実弟・部垂義元の争乱。

出典：

- ・茨城県教育庁総務企画部文化課編 『茨城県の中世城館－茨城県中世城館跡総合調査報告書－』（茨城県教育委員会、2023）
- ・茨城城郭研究会編『続・図説茨城の城郭』（国書刊行会、2017）
- ・茨城城郭研究会編『続・図説茨城の城郭 3 常陸太田市編』（2024）



利員城想像図（茨城城郭研究会編『続・図説茨城の城郭 3 常陸太田市編』より）



山城を歩く（利員城跡編）

—見どころ解説と注意点—

① 切岸を見上げてみよう！

天満出城の切岸を見上げると、切岸の高さがよくわかる。
利員城跡巡りの安全を願って参拝するのもよし。神社境内から見下ろすと、敵の動きがよくわかる。

② 木橋と土橋（現代施設）

往時の施設ではないけれど、登城路（大手道）の雰囲気味わえる。
敵が攻めて来た時には木橋や土橋を破壊し足止めする。

③ 外城（外城）への道（つづら折り）

屈曲した狭い道は敵の侵攻スピードを鈍らせる。もたもたしているうちに、上の郭に待機する兵から矢や石つぶてなどの攻撃で全滅なんてことも。

④ 外城

利員城最初の大きな主要施設。何段にも築かれた郭群は高低差が激しい。立地から推測すると、倉庫群や物見・利員城の管理施設などが設けられていたのかも。

⑤ 竜貝城への登城路

尾根上に築かれた郭群の傍を通る細道。竜貝城を目指す敵の左側は急な斜面…、郭群に潜む兵からの攻撃にはひとたまりもない。

⑥ 細い帯郭

谷津（深い谷）からの侵入も許さない。急斜面を登ってくる敵への備えも万全。ただし、自分たちの退避も困難な地形…。守備兵は捨て身の防御だったかも。

⑦ 大きな切岸①を登ろう！

よじ登るのがたいへん。滑落注意。山城の急峻さが理解できる。
ところどころに石つぶてに使うために運ばれたかも知れない川原石がみられる。

⑧ 大きな切岸②から本郭へ

竜貝城本郭にして利員城の中心施設。有事に立て籠もるための施設や物見などが設けられていたのかも。本郭へのアクセスはたいへん。足元に注意。登り切れば本郭に入る。南西側は立木が伐採により眺望が改善され、木々の間から居館部が見渡せる。

地元の方々により設置されたベンチでしばし休息を。

⑨ 二重堀切と土塁（本郭より）

利員城跡最大の見せ場。本郭から見下ろす堀切は城跡巡りの醍醐味を味わえる。
※ここから直接ウリクレ方面に進むのは危険。

⑩ 二重堀切と土塁（下から）

尾根を断ち切った堀切は斜面を下って竖堀に変化する。
堀底から見上げると、攻め手側の兵の絶望的な気持ちが出る。

⑪ 小郭群と土塁

用途は定かではないが、何らかの施設が設けられていたのかも。土塁は尾根上に沿う形で設けられ、竜貝城と天満出城の間の谷津から侵入する敵への備えか。

⑫ ウリクレ・外城

謎の広い平坦部。
以前は人家があったとのことなので、以前から開墾され開けた地形だったようである。あるいは隣接する棚谷やサギ山方面から集結した兵たちが休息する一時的な駐屯地として使われた可能性も。
北端の頂には塚が築かれ、いずれかの時代に何らかの祭祀が行われていたと考えられる。

⑬ 原沢への下り道

ウリクレと外城をかすめて原沢へ下る細道。利員城へのもう一つの登城路だったのかも。落ち葉で滑るところがあるので注意が必要。

⑭ 古井戸 A

大きなつづら折りを曲がったところに古い井戸 A がある。形状的には比較的新しめのものと思われるが、それでも近世までに掘られた井戸の可能性が高い。蓋が無いので転落注意。

⑮ 古井戸 B

山の急斜面を半円形に掘り込んだ底に古い井戸 B がある。形状的にみて中世まで遡ることのできるものの可能性が高い。古井戸 A・B の 2 か所の存在からも、この原沢地区が古くから水に恵まれた場所だったことが考えられる。

⑯ 原沢（謎の斜め郭群）

原沢に設けられた郭群で、郭内が平坦ではなく、斜面に沿った斜めの地形であるところから用途が謎。利員城が機能している時期から存在していたのならば、平時には耕作して兵糧を生産していたのかも。古井戸の存在から考えても農産物栽培のための水の確保は容易。想像を逞しくすれば軍馬や荷物運搬用の牛など家畜の放牧場にも使えたかも。

◎山城を歩く時の注意点◎

◎山城はその性質上険しい山の上に築かれています。見学する時は服装や装備を十分整えて行きましょう。
特に、整備されていない山城の見学は細心の注意を払って。

◎見学到最適な季節は、藪が枯れて危険な生物などがいない冬季です。見通しの利かない山中では、何が起こるか予測不可能です。また、山中で火を使う行為は山火事などにつながるので危険です。絶対にやめましょう。

◎山城がある場所には必ず所有者がいます。特に、スギやヒノキなどは立派な商品なので、釘や画鋲を刺すなど木を傷付けて商品価値を下げる行為は絶対にやめましょう。また、動植物を採集したり植えたりすることもやめましょう。

◎持ち込んだごみは必ず持ち帰りましょう。城跡は名もなき武士達が命がけで守った場所でもあります。

◎城跡は価値のある文化財です。いたずらに掘り返したり、崩したりすることはやめましょう。